

音楽とアートで障がい者の未来を照らす

JOY倶楽部

誰もが

ゆたかな

世の中に





J O Y 倶 楽 部 に は 音 楽 活 動 を す る 「 ミ ュ ー ジ ャ ン サ ン プ ル 」 と 、 ア ー ト 制 作 を す る 「 ア ト リ エ プ ラ ヴ ォ 」 の 2 つ の グ ル ー プ が あ り 、 そ れ ぞ れ の 想 い を 込 め て 活 動 し て い ま す 。

2022年からは生活介護事業も立ち上げ、現在は多機能型事業所として運営しています。

今回、アトリエプラヴォの樋渡幸大ひわたしこうだい氏が飛鳥IIIアート公募展で福岡銀行賞を受賞したことをきっかけにFFG五島社長が表敬訪問を行い、ミュージシャンサンプルのメンバーとセッションしました。

障がい者に秘められた

「可能性」を伸ばすために 設立されたJOY倶楽部

社会福祉法人JOY明日への息吹が運営する障害福祉サービス事業所「JOY倶楽部」。1993年に福岡市博多区で結成し、1997年に知的障害者の認可外作業所として運営。2001年に社会福祉法人の認可を受け、2002年に「知的障害者通所授産施設 JOY倶楽部プラザ」として現在の博多区東月隈に施設が建築されました。2011年には法人名を「社会福祉法人 JOY明日への息吹」に変更し、障害福祉サービス就労継続支援B型事業所として運営を行っています。

JOY倶楽部の創設者である緒方克也^{おがた かつや}理事長は、1979年に福岡市博多区で障がい者専門の歯科医院を開設しました。1980年代にオランダの学会で出会った知的障がい者の音楽バンド「JOSTI BAND」に感銘を受け、日本でも

障がいを持つ人が市民権を持って社会で活躍できる場を提供したいと考えるようになりました。その後、歯の治療に来院した患者や保護者、繋がりのある音楽家、画家、教育者、福祉家、ボランティアなどさまざまな人に声をかけミュージックアンサンブルは結成されました。

1993年の結成当初は、演奏経験がない人がほとんどでトレーナーが自宅まで訪問して演奏の技術を教えるところから始まり、当時は支援学校や就労先で生活する傍ら、月に2回練習場を借りて合同の練習を行っていました。認可外作業所の運営が開始した1997年からは倉庫の一角を借りて11名のメンバーが通うJOY倶楽部プラザが誕生。音楽を仕事にしたいというメンバーの意識の高まりに加えてマスコミに特集され、社会に周知される機会も徐々に増えて行くことで演奏活動の場が広がり、2000年に目標だったデビューアルバムをリリース、更にデビューコンサートを果たします。

社会福祉法人の認可が下りて就労継続支援B型事業所となつてからも音楽活動を行う「JOY倶楽部ミュージックアンサンブル」とアート活動を行う「アトリエブラヴォ」は活躍の場を広げています。

一人ひとりが得意なことを 伸ばしながら

ゆたかな生活を送るために

JOY倶楽部が運営する就労継続支援B型事業所というのは、通常の事業所に雇用されることが困難で、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じ、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う事業所のことをいいます。利用者は、音楽やアートを提供する活動を通じて工賃を受け取ることができません。

JOY倶楽部では「障がい者だから質が悪くても許される」という考



岡部施設長によるJOY倶楽部の説明の様子



株式会社LANDICホールディングスの中山社長も同席



クルーズ船飛鳥Ⅲアート公募展受賞者の表彰パーティ
左から橋川常務(福岡銀行)、樋渡氏



樋渡氏

えは許されないという考えのもと、その人らしさに着目しながらできることを見つけ、能力を伸ばしていきたいように支援を行っています。音楽やアート活動を通じて「自己実現・自尊心と障がい特性・健康で豊かな生活・自立と社会参加」を獲得することを目的とし、JOY倶楽部が利用者に向かをするのではなく、利用者が主体となつてどのようなサービスを受けるのかを決めることによつて、生きがいにつながるということを大事にしています。

クルーズ船飛鳥Ⅲ アート公募展で 福岡銀行賞を受賞

福岡銀行は、郵船クルーズ株式会社主催する、2025年夏に就航予定の「飛鳥Ⅲ」船内に展示する作品を公募した「クルーズ船飛鳥Ⅲアート公募展」にスポンサーとして協賛しました。協賛企業賞である「福岡銀行賞」をアトリエブラヴォの樋渡幸大氏が受賞し、2024年12月に横浜港で停泊していた「飛鳥

Ⅱ」船内で授賞式が行われました。

受賞した樋渡氏は、幼い頃から大相撲の熱狂的なファンで、九州場所を毎年楽しみにしているとのこと。鉛筆で細かい線画を描き、黒ペンでその鉛筆線を辿り、アクリル絵の具で色付けをしていく繊細な手法で、躍動感のある作品を仕上げます。生き甲斐は「毎日仕事をする」ことで、日々新しい作品を描かれています。

JOY倶楽部へ表敬訪問

2025年1月28日(火)、五島社長がJOY倶楽部へ表敬訪問を行いました。当日は、クルーズ船飛鳥Ⅲアート公募展で福岡銀行賞を受賞した樋渡氏に激励の言葉を送り、アトリエブラヴォを見学。

アトリエブラヴォは、一人ひとりの夢が叶うよう一歩ずつ歩む作家集団です。一人ひとりが日々感性を研ぎな

クルーズ船飛鳥Ⅲ
アート公募展
受賞、入選一覧は
こちら



アトリエブラヴォを見学





竹ストローデザイン



竹ストローデザインの原画「雪山」



樋波氏の作画風景を見学

から、アーティストとして自立することをめざし、同時にアトリエブラヴォという、作家集団としての力も大切にしながら仕事に取り組んでいます。

アトリエブラヴォの活動のひとつとなつている福岡市街でのウォールアートでは、小学校の学童保育所や商店街のシャッターなどに描かれており、地域と一体となつてアトリエブラヴォのアート作品は活躍しています。ほかにもグッズ制作やロゴマークの制作などにも取り組まれており、福岡銀行のノベルティの竹ストローでもアトリエブラヴォのデザインが採用されました。

JOY倶楽部

ミュージックアンサンブル

1993年に福岡市で誕生したJOY倶楽部ミュージックアンサンブルは「およびがかかれば どこへでも！」を合言葉に県内外問わず、さまざまな場所で公演を行っています。アコースティックな楽器とシンセサイ

ザーを用いて、観客と一緒に歌や踊りを楽しめるオリジナル曲をはじめ、クラシックからポップス、映画音楽などを演奏しています。

活動の一環として福岡銀行本店広場で開催される「ビルの谷間のコンサート」でも毎年演奏を行っており、今年も4月22日(火)に開催します。



昨年のビルの谷間のコンサートでの演奏風景

ミュージックアンサンブル

FFG五島社長とのセッション

五島社長の表敬訪問では、ミュージックアンサンブルの演奏が披露されました。その後、福岡銀行軽音楽部でもある五島社長にセッション参加へのお誘いがかかり、ミュージック



ミュージックアンサンブルとセッションする五島社長



ミュージックアンサンブルとセッションする五島社長

アンサンブルの皆さんとともに軽快なリズムでドラムを叩きました。



セッション後に笑顔で五島社長を囲む利用者の皆さま

障がい者の将来を考えた支援を継続していく

昔の日本の障がい者福祉は現代のように障がい者に特化したサービスが充実しておらず、保護者が我が子を守っていかねければなりません。それゆえに自分の感情を出すことが難しかったり、自分で決める機会が無かったり、親が敷いてくれたルールを進むしかできないということが一般的でした。

J O Y 倶楽部では、自分のやりたいことに取り組み、自分で感情を出すということを尊重しています。

そのうえで、基本的な生活の確立を図り、集団での行動や仕事が問題なく遂行できるように支援を行っています。できないことに対しても目的を持ち、経験を積んでもらうことが利用者の成長につながっています。

J O Y 倶楽部は、利用者の自立と成長のために、一人ひとりの命を大切にしたい社会参加で、障がいを持つ人も持たない人も共に生きる社会の実現を目標に活動を続けられています。



ミュージックアンサンブルの演奏

ミュージックアンサンブルが ビルの谷間のコンサートに出演します！

社会福祉法人 JOY明日への息吹
障害福祉サービス事業所

JOY倶楽部

所在地：福岡市博多区東月隈3丁目27-1



施設長
おかべ しゅうすけ
岡部 秀輔 氏

生まれも育ちも福岡県篠栗町、趣味はバンドのギター演奏という岡部施設長は、そば打ちなど多様な特技を持ち、農業分野ではコメ作りに取り組みられています。2003年に生活支援員としてJOY倶楽部に入職後、利用者の方の生活をサポートしながら、ミュージックアンサンブルのメンバーと一緒にステージに上がり演奏のサポートをするなど、利用者の方に寄り添いながら支援をされてきました。2023年から施設長として施設全体の管理を務めています。

イベント名	第313回「ふくぎん“ビルの谷間のコンサート”」
日時	2025年4月22日(火) 12:15~13:00
場所	ふくぎん本店広場 (福岡市中央区天神二丁目13番1号)
出演	JOY倶楽部ミュージックアンサンブル
入場料	無料(入場整理券なども不要)
主催	一般財団法人 ふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団

※天候やその他の事情により、変更になる場合がございます。